

201333003A・B

厚生労働科学研究費補助金
難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業
(肝炎関係研究分野)

肝炎対策の状況を踏まえたウイルス性肝疾患
患者数の動向予測に関する研究

平成 25 年度 総括・分担研究報告書
平成 23～25 年度 総合研究報告書

研究代表者 田中 英夫

平成 26 (2014) 年 3 月

目 次

I. 平成 25 年度 総括研究報告

- 肝炎対策の状況を踏まえたウイルス性肝疾患患者数の動向予測に関する研究
研究代表者： 田中 英夫 1

II. 平成 25 年度 分担研究報告書

1. 当院における術前肝炎ウイルス検査の陽性率
吉岡健太郎 11
2. 当院の肝疾患患者における肝硬変合併の有無の推定
八橋 弘 18
3. 山形県における B 型慢性肝炎患者数の推計
齋藤 貴史 23
4. 愛知県における慢性ウイルス性肝疾患患者数の推計
藤原 圭 30
5. 献血者における新規 HCV 感染者数
内田 茂治 35
6. 肝細胞癌罹患数の将来推計
肝細胞癌有病数の推計
片野田耕太、田中佐智子、松田 智大、内田 茂治 39
7. 肝細胞がん罹患の将来推計に関する予測モデルの構築
田中佐智子、片野田耕太 43
8. 小児期の慢性ウイルス性肝疾患の受療調査について
田尻 仁 47
9. 肝細胞癌罹患数から逆算する我が国のウイルス性肝疾患患者数の推計
伊藤 秀美 50

Ⅲ. 平成 23～25 年度 総合研究報告書	
肝炎対策の状況を踏まえたウイルス性肝疾患患者数の動向予測に関する研究 研究代表者： 田中 英夫	53
Ⅳ. 平成 23～25 年度 総合研究報告書 (分担)	
1. 当院における術前肝炎ウイルス検査の陽性率 吉岡健太郎	69
2. 当院外来通院肝疾患患者および長崎県の肝臓死亡者数の実態 当院の肝疾患患者における肝硬変合併の有無の推定 八橋 弘	78
3. 肝炎医療費助成制度の活用状況に基づく地域における C型およびB型慢性肝炎患者数の推計 齋藤 貴史	90
4. 特定地域におけるウイルス性肝疾患の推計および肝細胞癌患者の実態調査 藤原 圭	98
5. 献血者における HBV、HCV 感染状況 内田 茂治	108
6. 肝細胞癌罹患数の将来推計 肝細胞癌有病数の推計 片野田耕太、田中佐智子、松田 智大、内田 茂治	112
7. 小児期の慢性ウイルス性肝疾患の受療調査について 田尻 仁	115
8. 肝細胞癌罹患数から逆算する我が国のウイルス性肝疾患患者数の推計 伊藤 秀美	119
Ⅴ. 研究成果の刊行に関する一覧表	123

平成 23～25 年度

Ⅲ. 総 合 研 究 報 告 書

肝炎対策の状況を踏まえたウイルス性肝疾患患者数の動向予測に関する研究

研究分担者 田中英夫 愛知県がんセンター研究所 疫学・予防部 部長

研究要旨

我が国のB型およびC型肝炎ウイルス感染者数を、新しい2つの方法で別々に推計した。方法1は、全国350万人の献血者スクリーニングデータの、HBs抗原およびHCV抗体陽性割合の自己選択バイアスを補正する方法である。インターネット調査により、上記集団のウイルスマーカー陽性割合を全国値にあてはめる場合の補正係数を、HBs抗原 男1.39、HBs抗原 女1.42、HCV抗体 男1.38、HCV抗体 女1.41と算出した。これらを用いて26～79歳における2010年時点の国内の肝細胞癌(HCC)を除くキャリア数を、B型キャリア1,279,000人、C型キャリア1,294,000人と推計した。第2の方法では、山形県、愛知県、長崎県の地域がん登録資料から得られたHCC罹患率と、当該県のHCC患者における肝炎ウイルスマーカー陽性割合からB型C型HCC罹患率を求め、これと大阪の献血者コホートなどから得た、キャリアのHCC累積罹患率から、キャリア数を逆算して求め、その値を、3県と全国の肝癌死亡比で調整し、全国値に外挿する方法で推計したところ、2010年時点の45～74歳における無症候性キャリアと潜在ウイルス性肝炎患者数をB型903,000人、C型971,000人になった。2つの方法による同時期同年齢のキャリア数は近似していたことから、推計値の妥当性が示された。

次に、①TORCH全国調査、②出産適齢期(20～39歳)女性の初回献血者、③大阪府と鳥取県の妊婦を対象とした調査から、ウイルス肝炎母子感染による年間新規感染者数は、B型100～200人、C型80～350人と推計した。

次に、診断から5年以内の(受療中と考えられる)肝細胞癌(HCC)の有病者数の将来推計をしたところ、B型HCCは2011～15年がピークで15,600人、その後は、なだらかに減少し、2030年に12,900人に、また、C型HCCは2008～12年がピークで64,000人、その後、やや早いペースで減少し、2030年に44,500人になると推計した。

研究分担者

吉岡健太郎	藤田保健衛生大学 肝胆膵内科学	内田 茂治	日本赤十字社中央血液研究所 感染症解析部
八橋 弘	国立病院機構長崎医療センター 臨床研究センター	松浦健太郎	名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学
齋藤 貴史	山形大学医学部 消化器内科学	藤原 圭	名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学

片野田耕太	国立がん研究センター がん対策情報センター がん統計研究部 がん統計解析室
松田 智大	国立がん研究センター がん対策情報センター がん統計研究部 地域がん登録室
田尻 仁	大阪府立急性期・総合医療 センター小児科
伊藤 秀美	愛知県がんセンター研究所 疫学・予防部
田中佐智子	京都大学医学部附属病院 臨床研究総合センター

A. 研究目的

我が国の B 型および C 型肝炎ウイルス (HBV, HCV) 感染者数は、合計で 370 万人とも言われているが、その正確な数は明らかではない。その数を正確に推計することは、今後 20 年間の我が国のウイルス肝炎対策および肝炎ウイルスに起因する肝細胞癌 (HCC) の診断、治療体制の整備に重要な意味を持つ。

そこで、本研究班の目的は、①我が国の HBV, HCV の感染者数をできるだけ正確に推計すること、②我が国の HBV, HCV の年間母子感染者数を推計すること、③我が国の HBV, HCV 感染に起因する HCC の有病者数を推計することにある。

B. 研究方法

(1) 無症候性キャリアと潜在慢性肝炎患者数の推計：方法 1 (田中英夫、内田、伊藤)

初回献血者の HBs 抗原および HCV 抗体陽性割合を、自己選択バイアスを補正して日本人一般集団でのそれを推計し、これから全国の肝炎ウイルスキャリア数 (HCC を除く) を求めた。

インターネット調査により、40～59 歳の献血歴のある 7,000 人と献血歴のない 1 万人を対象に、HBV および HCV の感染歴などを尋ねた。このデータから、

①1995～2000 年に初回献血したものを reference group とした、

②それ以外の期間に初回献血した者、

③献血経験の無い者

での、感染リスク比を算出した。

また、このデータから①, ②, ③の各集団の人口割合を求めた。これらから、1995～2000 年の初回献血者におけるウイルスマーカー陽性割合を、全国値にあてはめる場合の調整係数を求めた。

次に、日赤より 1995～2000 年の全国の初回献血者 3,485,648 人のスクリーニングデータから出生年代別 (1931～1984 年生まれ) の HBs 抗原陽性率および HCV 抗体陽性率データを得た。このデータを 2010 年の国勢調査から得られた出生年代別人口に当てはめて、B 型、C 型の陽性者数を算出した。最後に、その値に上記の係数を乗じることで、初回献血者の自己選択バイアスを除去し、2010 年の全国の 26～79 歳 (1995～2000 年の時点で献血対象年齢であった、1931～1984 年生まれの集団に相当) における HCC を除くキャリア数を算出した。

インターネット調査による献血歴ありの者での HBV, HCV 感染歴ありの者の割合は、1.3% (93/7,000)、0.6% (39/7,000) であった。献血歴なしの者では、HBV1.4% (141/10,000)、HCV0.7% (67/10,000) であった。

初回献血の時期が 1995～2000 年であると答えた者を reference group とした、HBV 感染状態であるリスク比を多重ロジスティック回帰分析で求めた。初回献血の時期が 1996～2000 年以外の時期の者では調整

odds 比が 1.31、献血歴なしの者では 1.55 となった。HCV 感染状態であるリスク比は、各々 1.24、1.61 となった。

1995～2000 年に初回献血を行った人、それ以外の時期に献血した人、献血未経験者の割合は、男で 3.5%、57.2%、39.3%、女

で 2.8%、49.6%、47.6%であった。この値と、先の odds 比から、調整係数を HBs 抗原 男 1.39、HBs 抗原 女 1.42、HCV 抗体 男 1.38、HCV 抗体 女 1.41 と算出した (表 1)。

表1. 1995-2000年の初回献血者スクリーニングデータにおけるHBs抗原陽性率、HCV抗体陽性率を、全国の一般住民におけるそれにあてはめる場合の、自己選択バイアスを取り除くための調整係数の算出

カテゴリー	1995-2000年 初回献血者で の感染確率 (基準) × その人口 割合	+	それ以外の時 期の初回献血 者での感染リ スク比 × その人口 割合	+	未献血者での 感染リスク比 × その人口 割合	=
HBs 抗原 男	(1.00 × 0.035)	+	(1.31 × 0.572)	+	(1.55 × 0.393)	= 1.39
HBs 抗原 女	(1.00 × 0.028)	+	(1.31 × 0.496)	+	(1.55 × 0.476)	= 1.42
HCV 抗体 男	(1.00 × 0.035)	+	(1.24 × 0.572)	+	(1.61 × 0.393)	= 1.38
HCV 抗体 女	(1.00 × 0.028)	+	(1.24 × 0.496)	+	(1.61 × 0.476)	= 1.41

1995～2000 年の全国の初回献血者で、1931～1984 年に生まれた男 1,780,149 人、女 1,705,499 人の HBs 抗原陽性率は、0.73%と 0.53%、HCV 抗体陽性割合は、0.48%と 0.50%であった。このデータを用いて出生年別に陽性割合を計算し、2010 年の国勢調査人口に当てはめて陽性者数を算出し、その数にさらに上記の調整係数を乗じると、2010 年時点の 26～79 歳 (1995～2000 年の時点で献血対象年齢であった、1931～1984 年生まれに相当) における HCC を除くキャリア数は、B 型 1,279,000 人、C 型 1,294,000 人と推計された。

(2) 無症候性キャリアと潜在慢性肝炎患者数の推計：方法 2 (伊藤、田中英夫、内

田、齋藤、吉岡、藤原、八橋、片野田)

図 1 に推計方法の流れを示す。

まず、山形、愛知、長崎の地域がん登録資料と、3 県で治療を受けた HCC 患者の性、年齢別 HBV・HCV マーカー陽性割合から、3 県の、性・年齢別 B 型、C 型 HCC 罹患率を求める。そして、これと HCC 患者における肝硬変非合併割合 (肝線維化の程度または血小板値で判断) から、肝硬変を合併しない 3 県の性、年齢別 B 型、C 型 HCC 罹患率を求める (A)。

次に、大阪の献血者コーホート、JPHC コーホート、および佐賀の住民検診コーホートの中の、HBs 抗原陽性者および HCV 抗体価高値の者についての、HCC 年率罹患率の合計を、性、年齢別に求める (B)。

(A) と (B) から、3 県の 1990 年代の

HBV キャリア数およびHCV キャリア数を求める (C)。

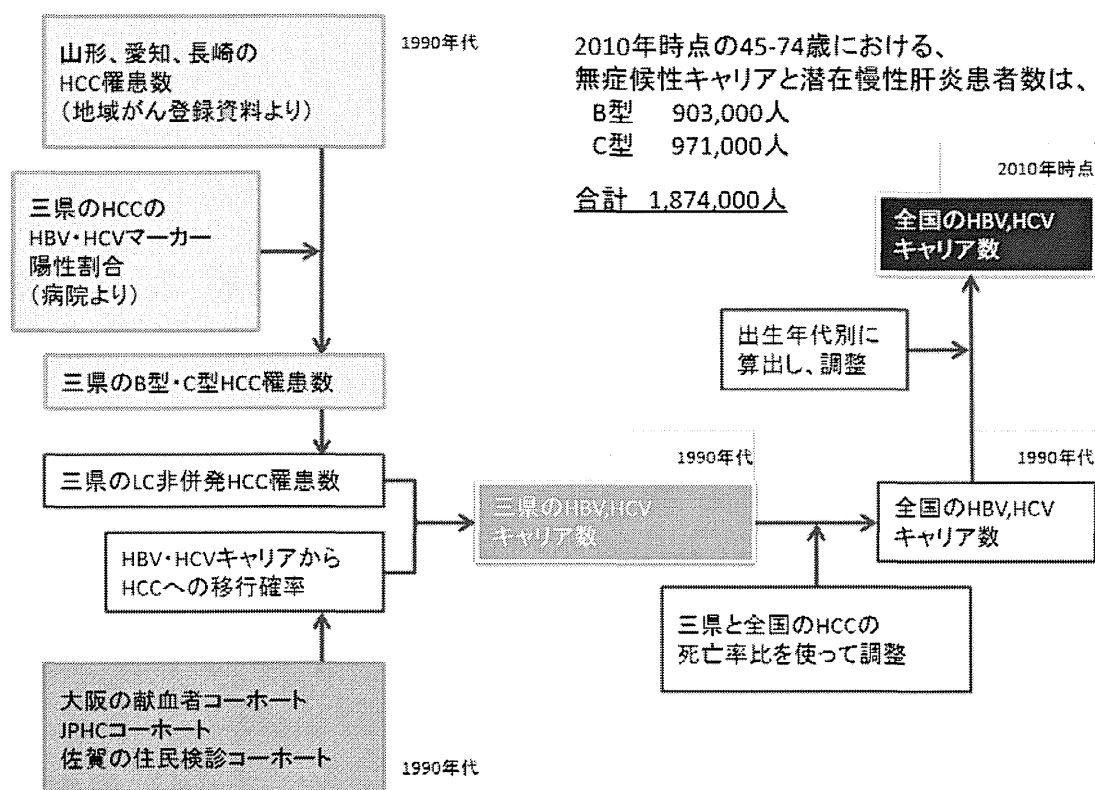
(C) を 1990 年代当時の全国値 (D) に外挿するため、3 県と全国の HCC の死亡率比を使って調整し、算出する (E)。

最後に、(E) を 2010 年時点の日本人人口内でのキャリア数にあてはめるため、出

生年代別に算出し、それを 2010 年の出生年代別人口にあてはめて調整する。

こうして、2010 年時点の 45～74 歳における無症候性キャリアと潜在慢性肝炎患者数は、B 型 903,000 人、C 型 971,000 人、合計 1,874,000 人と推計した。

図1.地域ベースのHCC罹患数と、HBV・HCVキャリアのHCC罹患率から、当該地域内のキャリア数を逆算し、これを全国値に外挿する推計法の流れ



(3) 小児の母子感染による新規 HBV および HCV 感染者数の推計 (田尻)

推計法の第 1 は、TORCH 全国小児科アンケート調査結果である。届出医療機関別の調査票回収率と分娩数で偏りを補正した。第 2 の推計法は、全国の初回献血者 20～39 歳女性 (出産適齢期) の B 型、C 型陽性割合と、2009 年の全国小児科アンケート調査結果に基づく、母親がキャリアであった時

の母子感染率 (B 型 1.97%、C 型 10.0%) を用いた。この時、この方法による値を全国値に外挿するため、全国の初回献血者と全国の肝炎ウイルス検診の節目検診受診者でのウイルスマーカー陽性割合の比を取って、補正した。推計法の第 3 は、大阪と鳥取の妊婦での陽性割合と、上記の母子感染率を用いた。このとき、この方法による値を全国値に外挿するため、上記 2 県の妊婦

での陽性割合と、全国の節目検診受診者での陽性割合の比を取って補正した。

その結果、全国の年間B型、C型母子感染による新規感染者数は、それぞれ推計法1で110人と77人、推計法2で117人と268人、推計法3で102人と341人となった。

(4) B型、C型HCC有病者推計(片野田、松田、田中佐智子)

昨年度までに本研究で開発した、年齢、暦年、それらの交互作用、および出生年別HCV陽性割合を説明変数としたモデルで、2000～2029年の40歳以上肝癌罹患数を推計した。適用したデータは、1975～2008年地域がん登録全国推計値の性別・年齢階級別肝癌罹患数である(<http://ganjoho.jp/professional/statistics/statistics.html>)。肝癌有病数(5年有病数)は、推計された肝癌罹患数を、地域がん登録に基づく2003～2005年性別・年齢階級別肝癌生存率と組み合わせ求めて(手法は「がん・統計白書2012-データに基づくがん対策のために」篠

原出版新社と同じ)。肝癌全体の推計値から肝細胞癌およびHBV・HCV由来の内訳を求めるために、肝癌に占める肝細胞癌の割合を、全国原発性肝癌追跡調査報告(日本肝癌研究会)の公表値から取得した。HCV由来の割合は1990年代以降減少傾向にあるため、最新値(70%)の固定シナリオと、対数線形モデルを割合データに適用した減少トレンド反映シナリオの2通りで推計を行った。

図2に肝細胞癌罹患数の推計結果を示す。肝細胞癌罹患数は2010年代の後半まで増加し続け、その後減少し2029年には2005年前後のレベルまで減少した。2010年、2020年、および2029年の肝細胞癌罹患数推計値は以下の通りであった。

2010年	44,600例
	(男性29,600例、女性15,000例)
2020年	45,800例
	(男性28,800例、女性17,000例)
2029年	41,900例
	(男性25,100例、女性16,800例)

図2. 肝細胞癌罹患数将来推計(40歳以上)

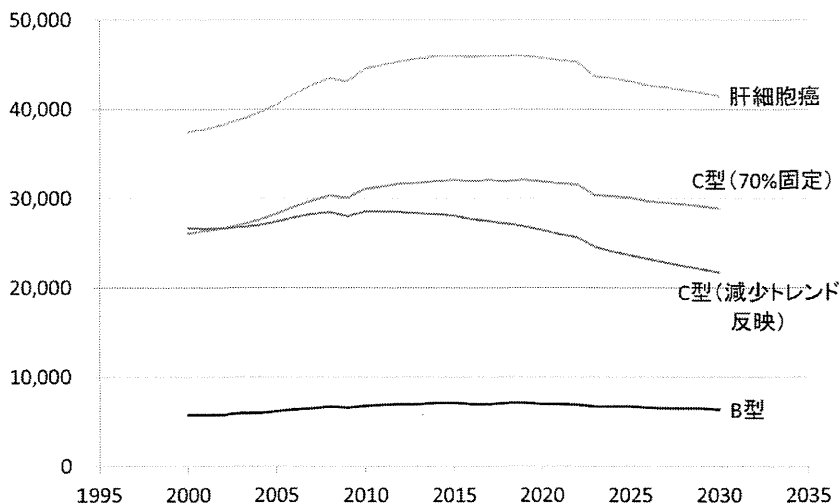
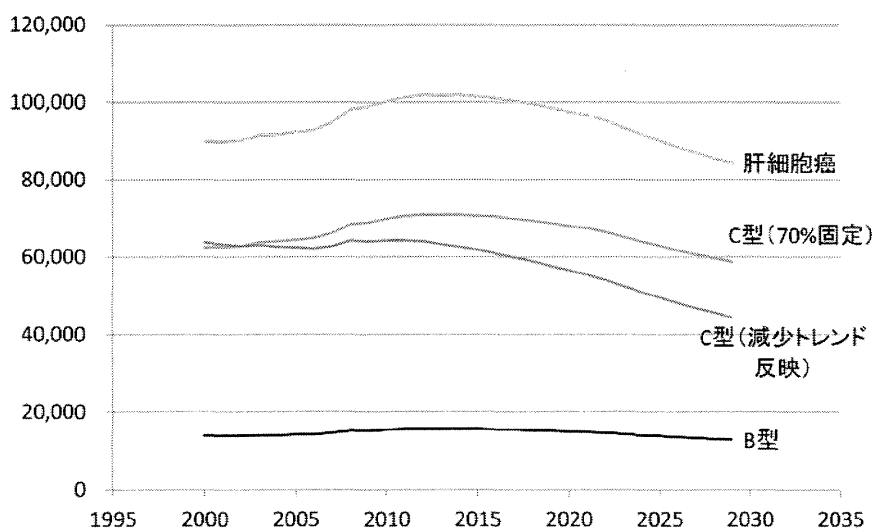


図3に肝細胞癌5年有病数の推計結果を示す。肝細胞癌有病数は、2014年現在がほぼピークで、以後減少し2029年には2007年前後のレベルまで減少した。2010年、2020年、および2029年の肝細胞癌有病数推計値は以下の通りであった。

2010年 100,300例
 (男性 68,600例、女性 31,700例)
 2020年 97,600例
 (男性 64,300例、女性 33,300例)
 2029年 84,300例
 (男性 53,000例、女性 31,300例)

図3. 肝細胞癌有病数将来推計(40歳以上)



B型、C型肝炎ウイルス別に見ると、罹患数、有病数ともにC型は肝癌全体と同様の変化を示し、B型では将来の減少がC型より緩やかであった。

(倫理面への配慮)

本研究で使用したデータは、連結不可能匿名化された個人データか、集計済みデータの二次利用である。それらのデータ利用に際しては、必要な事務手続きを講じている。

C. 考察と結論

推計方法1では、初回献血者のHBV、HCVマーカー陽性割合を、selection biasを調整することにより一般人口のそれに当てはめる方法で、HBV、HCV感染者数を推計した。その方法により、2010年の45

～74歳の層で再集計すると、B型895,396人、C型814,190人となった。推計方法2による結果との違いは、B型で0.85% $\{(903,000 - 895,396) / 895,396\}$ 、C型で19.3% $\{(971,000 - 814,190) / 814,190\}$ となった。

ところで、「肝炎ウイルス感染状況・長期化経過と予後調査及び治療導入対策に関する研究」班(主任研究者:田中純子広島大学教授)が、大規模集団の成績から推計した2005年時点の無症候性キャリア数は、B型903,145人、C型807,903人、合計1,711,048人と報告されている。同班はまた、診療報酬記録(64歳以下)から、全国の慢性ウイルス性肝炎患者数を、47.6万～52.0万人と推計している。この数字と上記キャリア数を加えると、約220万人となる。こ

れに対し、初回献血者から当研究班が推計した2010年時点の26～79歳のHBV, HCV感染者数(肝硬変、HCCを除く)は、合計で2,573,000人である。田中純子班での推計値の中に、65歳以上の慢性ウイルス性肝炎患者数が含まれていないことを考慮すると、両班の異なる推計法による推計結果は、かなり近い値になっていたことがわかる。

各々の推計法による推計結果が、どの程度真の値に近いかを評価する方法は、ゴールドスタンダードがない以上、存在しない。しかし、今回、異なる推計法で推計した結果の一致度が高かったことから、当研究班としては、2010年時点の日本の肝硬変、HCCを除く肝炎ウイルス感染者の推計数を、B型1,279,000人、C型1,294,000人と結論付けた。

母子感染による年間の感染者数も、3つの異なる推計法による推計結果が近かったため、B型100～120人、C型80～350人と結論付けた。

B型HCCの有病者数は、2010～15年がピークで15,600人とその後なだらかに減少し、2030年に12,900人に、また、C型HCCの有病者数は、2008～12年がピークで6,400人、その後やや速いペースで減少し、2030年に44,500人と予測した。なお、HCCの再発治療の件数は、有病者数に加えて、治療の手段によっても変わるものであるから、HCCの治療需要量の予測としては医療行為の情報をこれに加える必要がある。

D. 研究発表

1. 論文発表

Tanaka H. Advances in cancer epidemiology in Japan. *Int J Cancer* 2014;134:747-54.

田中英夫, 細野覚代, 伊藤秀美. 日本式B型肝炎母子感染予防事業は、小児のB型肝炎細胞癌を予防できたか?. In: 祖父江友孝, 田中英夫, 加藤哲郎, eds. *JACR Monograph No19*. 東京: 地域がん登

録全国協議会; 2013:3-12.

Tanaka H. Prevention of cancers due to infection. In: Miller A, ed. *Epidemiologic studies in cancer prevention and screening*. New York: Springer 2013:65-83.

田中英夫, 細野覚代. 日本のコホート研究が慢性ウイルス性肝疾患対策・診療に果たした役割. 佐田通夫, 田中榮司, 田中英夫, 長尾由実子 編. *コホート研究から見たウイルス性肝炎の解明*. メディカルレビュー社, 52-59頁. 東京. 2013年.

田中英夫, 細野覚代, 伊藤秀美. 肝癌の疫学. *臨床外科 増刊号* 2012; 67: 138-42.

田中英夫. 我が国における肝癌発生の最近の動向. *臨牀消化器内科* 2012; 27: 521-7.

Tanaka M, Katayama F, Kato H, Tanaka H, Wang J, Qiao YL, Inoue M. Hepatitis B and C virus infection and hepatocellular carcinoma in china: a review of epidemiology and control measures. *J Epidemiol* 2011; 21(6):401-16.

T. Nishikawa, S. Hashimoto, N. Kawabe, M. Harata, Y. Nitta, M. Murao, T. Nakano, Y. Mizuno, H. Shimazaki, T. Kan, K. Nakaoka, Y. Takagawa, M. Ohki, N. Ichino, K. Osakabe, K. Yoshioka. Factors correlating with acoustic radiation force impulse elastography in chronic hepatitis C. *World J Gastroenterol*. 2014; 20(5): 1289-1297.

Yoshioka K. What is the benefit of computer-assisted image analysis of liver fibrosis area? *Journal of gastroenterology* 2013; 48(8): 996-997

Yoshioka K. How to adjust the inflammation-induced overestimation of liver fibrosis using transient elastography? *Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology* 2013; 43(2): 182-184

Hayashi K, Katano Y, Masuda H, Ishizu Y, Kuzuya T, Honda T, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Nakano I, Ishikawa T, Urano F, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H. Pegylated interferon monotherapy in patients with chronic hepatitis C with low viremia and its relationship to mutations in the NS5A region and the single nucleotide polymorphism of interleukin-28B. *Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology* 2013;43(6):580-8.

中野若香菜, 池夏希, 石渡朝子, 伊藤広子, 菱田麻由佳, 伊藤志歩, 花下順子, 池田綾子, 原田雅生, 川部直人, 橋本千樹, 吉岡健太郎. C型肝炎患者に対する分岐鎖アミノ酸製剤によるlate evening snackを含む栄養管理の長期効果. *栄養評価と治療* 2012;29(4):357-363.

Yoshioka K, Hashimoto S. Can non-invasive assessment of liver fibrosis replace liver biopsy? *Hepatology Res* 2012;42(3):233-40.

- Hayashi K, Katano Y, Kuzuya T, Tachi Y, Honda T, Ishigami Nakano M, Urano F, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H. Prevalence of hepatitis C virus genotype 1a in Japan and correlation of mutations in the NS5A region and single-nucleotide polymorphism of interleukin-28B with the response to combination therapy with pegylated-interferon-alpha 2b and ribavirin. *J Med Virol* 2012;84(3):438-44.
- Osakabe K, Ichino N, Nishikawa T, Sugiyama H, Kato M, Kitahara S, Hashimoto S, Kawabe N, Harata M, Nitta Y, Murao M, Nakano T, Shimazaki H, Arima Y, Suzuki K, Yoshioka K. Reduction of liver stiffness by antiviral therapy in chronic hepatitis B. *J Gastroenterol* 2011; 46(11): 1324-34.
- Chayama K, Hayes CN, Yoshioka K, Moriwaiki H, Okanoue T, Sakisaka S, Takehara T, Oketani M, Toyota J, Izumi N, Hiasa Y, Matsumoto A, Nomura H, Seike M, Ueno Y, Yotsuyanagi H, Kumada H. Factors predictive of sustained virological response following 72 weeks of combination therapy for genotype 1b hepatitis C. *J Gastroenterol* 2011; 46(4): 545-55.
- Hayashi K, Katano Y, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Nakano I, Urano F, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H. Mutations in the core and NS5A region of hepatitis C virus genotype 1b and correlation with response to pegylated-interferon-alpha 2b and ribavirin combination therapy. *J Viral Hepat* 2011; 18(4): 280-286.
- Hayashi K, Katano Y, Honda T, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Ishikawa T, Nakano I, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H. Association of interleukin 28B and mutations in the core and NS5A region of hepatitis C virus with response to peg-interferon and ribavirin therapy. *Liver Int* 2011;31(9): 1359-65.
- Harata M, Hashimoto S, Kawabe N, Nitta Y, Murao M, Nakano T, Arima Y, Shimazaki H, Ishikawa T, Okumura A, Ichino N, Osakabe K, Nishikawa T, Yoshioka K. Liver stiffness in extrahepatic cholestasis correlates positively with bilirubin and negatively with alanine aminotransferase. *Hepatol Res* 2011; 41(5): 423-429.
- Ito K, Yotsuyanagi H, Yatsuhashi H, Karino Y, Takikawa Y, Saito T, Arase Y, Imazeki F, Kurosaki M, Umemura T, Ichida T, Toyoda H, Yoneda M, Mita E, Yamamoto K, Michitaka K, Maeshiro T, Tanuma J, Tanaka Y, Sugiyama M, Murata K, Masaki N, Mizokami M; Japanese AHB Study Group. Risk factors for long-term persistence of serum hepatitis B surface antigen following acute hepatitis B virus infection in Japanese adults. *Hepatology*. 59:89-97, 2014.
- Bae SK, Yatsuhashi H, Takahara I, Tamada Y, Hashimoto S, Motoyoshi Y, Ozawa E, Nagao S, Yanagi K, Abiru S, Komori A, Ishibashi H. Sequential occurrence of acute hepatitis B among members of a high school Sumo wrestling club. *Hepatol Res*. 2013 Sep 6.
- Taura N, Ichikawa T, Miyaaki H, Ozawa E, Tsutsumi T, Tsuruta S, Kato Y, Goto T, Kinoshita N, Fukushima M, Kato H, Ohata K, Ohba K, Masuda J, Hamasaki K, Yatsuhashi H, Nakao K. Frequency of elevated biomarkers in patients with cryptogenic hepatocellular carcinoma. *Med Sci Monit*. 2013 Sep 6;19:742-50.
- 八橋 弘. ウイルス肝炎と肝癌の撲滅を目指した実地診療のすすめかた, B型肝炎の自然経過と治療の進歩—実地医家はどのように対処すればよいのか—. *Medical Practice* 30(2): 186-193, 2013. 2.1.
- 玉田陽子, 八橋 弘. ウイルス肝炎の臨床の最新の知識と実地診療への応用, A型肝炎の現状と今後の展望—診療のすすめかた—. *Medical Practice* 30(2): 236-241, 2013.2.1.
- 八橋 弘, 玉田陽子, 山崎一美, 長岡進矢, 小森敦正, 阿比留正剛. 特集/肝炎から肝硬変・肝癌まで, ウイルス性急性肝炎の診療. *臨床と研究* 90(2): 13-18, 2013.2.
- 八橋 弘, 浜田るみこ, 中村実可, 玉田陽子, 釘山有希, 佐々木龍, 戸次鎮宗, 橋元 悟, 襲成寛, 大谷正史, 佐伯 哲, 長岡進矢, 小森敦正, 阿比留正剛. HCV抗体検出試薬「エクルーシス試薬 Anti-HCV II」の基本的性能評価. *医学と薬学* 69(2): 319-327, 2013.2.25.
- 八橋 弘. 疾患編, 第IX章 肝疾患, ①急性肝炎 (A型肝炎, B型肝炎, C型肝炎, D型肝炎, E型肝炎). 肝臓専門医テキスト. 日本肝臓学会編集, 南江堂, 東京, pp.186-190, 2013.3.30, 497頁
- 八橋 弘. 特集/ウイルス肝炎—治療の最前線—, 《トピックス》データマイニングを用いた治療効果予測. *Modern Physician* 33(4): 491-494, 2013.4.1.
- 八橋 弘. VI 肝疾患 急性肝炎 (B型). 治療過程で一目でわかる 消化器薬物療法 STEP 1・2・3. 一瀬雅夫, 岡 政志, 持田 智編集, メジカルビュー社, 東京, pp.154-158, 2013.4.1, 303頁
- 水田敏彦, 藤崎邦夫, 梶原英二, 杉 和洋, 中尾一彦, 渡邊 洋, 道免和文, 藤山重俊, 東 雅司, 丸山俊博, 佐田通夫, 林 純, 向坂彰太郎, 佐々木裕, 八橋 弘, 原田 大, 石橋大海, 桶谷 眞, 坪内博仁. <原著>1型高ウイルス量 C型慢性肝炎に対する PEG-IFN α -2a+Ribavirin 療法の治療成績—九州多施設共同研究—. *肝臓* 54(4): 266-276, 2013.4.25.
- 八橋 弘, 中村実可, 釘山有希, 佐々木龍, 戸次鎮宗, 橋元 悟, 襲成寛, 大谷正史, 佐伯 哲, 長岡進矢, 小森敦正, 阿比留正剛. 全自動生物化学発光免疫測定装置「BLEIA®-1200」専用試薬「BLEIA®「榮研」HCV抗体」の性能評価. *医学と薬学* 69(4): 643-653, 2013.4.25.
- 八橋 弘. 特集/ウイルス性肝性肝炎治療の新たな

な展開, 治療選択肢拡大で求められる適時・適切治療. *Japan Medicine Monthly* 041: 1, 2013.05.25.

八橋 弘. C型肝炎薬物治療の可能性, プロテアーゼ阻害薬含む3剤併用療法の時代に, インターフェロンフリーの可能性も. *Japan Medicine Monthly* 041: 2, 2013.05.25.

八橋 弘. PegIFNとHBs抗原量. 別冊・医学のあゆみ B型肝炎—最新治療コンセンサス, 溝上雅史編集, 医歯薬出版株式会社, 東京, pp.63-68, 2013.7.15, 133頁

八橋 弘. 肝炎ウイルス感染症, デルタ (D型) 肝炎ウイルス (デルタ (D型) 肝炎). 別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ No.24. 感染症症候群(第2版)—症候群から感染性単一疾患までを含めて— 上 病原体別感染症編, pp.545-548, 2013.7.20.

八橋 弘. I. HBVとその感染症の基礎, 4. HBV感染の診断法. de novo B型肝炎—HBV再活性化予防のための基礎知識—, 持田智編集, 医薬ジャーナル社, 大阪, pp.55-67, 2013.9.20, 175頁

長岡進矢, 八橋 弘. インターフェロン治療, -III. 治療編, 2. 抗ウイルス薬による治療. HEPATOLOGY PRACTICE 1 B型肝炎の診療を極める—基本から最新線まで. 田中榮司他, 文光堂, 東京, pp.97-103, 2013.10.11, 216頁

八橋 弘. IV. 肝臓 (各論) / 感染症, その他のウイルス肝炎 (D型肝炎, E型肝炎, EBウイルス, サイトメガロウイルス). 専門医のための消化器病学 第2版, 小俣政男・千葉勉監修, 下瀬川徹・渡辺守・木下芳一・金子周一・檜田博史編集, 医学書院, 東京, pp.363-366, 2013.10.15.

Izumi N, Asahina Y, Kurosaki M, Yamada G, Kawai T, Kajiwaru E, Okamura Y, Takeuchi T, Yokosuka O, Kariyama K, Toyoda J, Inao M, Tanaka E, Moriwaki H, Adachi H, Katsushima S, Kudo M, Takaguchi K, Hiasa Y, Chayama K, Yatsushashi H, Oketani M, Kumada H. Inhibition of hepatocellular carcinoma by PegIFN α -2a in patients with chronic hepatitis C: a nationwide multicenter cooperative study. *J Gastroenterol.* 2012 Aug 9.

Watanabe T, Sugauchi F, Tanaka Y, Matsuura K, Yatsushashi H, Murakami S, Iijima S, Iio E, Sugiyama M, Shimada T, Kakuni M, Kohara M, Mizokami M. Hepatitis C virus kinetics by administration of pegylated interferon α in human and chimeric mice carrying human hepatocytes with variants of the IL28B gene. *Gut.* 2012 Nov 7.

Matsumoto A, Tanaka E, Suzuki Y, Kobayashi M, Tanaka Y, Shinkai N, Hige S, Yatsushashi H, Nagaoka S, Chayama K, Tsuge M, Yokosuka O, Imazeki F, Nishiguchi S, Saito M, Fujiwara K, Torii N, Hiramatsu N, Karino Y, Kumada H. Combination of hepatitis B viral antigens and DNA for prediction of relapse after discontinuation of nucleos(t)ide analogs in patients with chronic hepatitis B. *Hepatol*

Res. 2012 Feb;42(2):139-149

Tamada Y, Yatsushashi H, Masaki N, Nakamura M, Mita E, Komatsu T, Watanabe Y, Muro T, Shimada M, Hijioka T, Satoh T, Mano Y, Komeda T, Takahashi M, Kohno H, Ota H, Hayashi S, Miyakawa Y, Abiru S, Ishibashi H. Hepatitis B virus strains of subgenotype A2 with an identical sequence spreading rapidly from the capital region to all over Japan in patients with acute hepatitis B. *Gut.* 2012 May;61(5):765-73.

Toyama T, Ishida H, Ishibashi H, Yatsushashi H, Nakamura M, Shimada M, Ohta H, Sato H, Kato M, Hijioka T, Takano H, Komeda T, Yagura M, Mano H, Watanabe Y, Kobayashi M, Mita E. Long-term outcomes of add-on adefovir dipivoxil therapy to ongoing lamivudine in patients with lamivudine-resistant chronic hepatitis B. *Hepatol Res.* 2012 Dec;42(12):1168-1174.

Migita K, Abiru S, Ohtani M, Jiuchi Y, Maeda Y, Bae SK, Bekki S, Hashimoto S, Yesmebetov K, Nagaoka S, Nakamura M, Komori A, Ichikawa T, Nakao K, Yatsushashi H, Ishibashi H, Yasunami M. HLA-DP gene polymorphisms and hepatitis B infection in the Japanese population. *Transl Res.* 2012 Dec;160(6):443-4.

Bae SK, Yatsushashi H, Hashimoto S, Motoyoshi Y, Ozawa E, Nagaoka S, Abiru S, Komori A, Migita K, Nakamura M, Ito M, Miyakawa Y, Ishibashi H. Prediction of early HBeAg seroconversion by decreased titers of HBeAg in the serum combined with increased grades of lobular inflammation in the liver. *Med Sci Monit.* 2012 Dec 1;18(12):CR698-705.

Tateyama M, Yatsushashi H, Taura N, Motoyoshi Y, Nagaoka S, Yanagi K, Abiru S, Yano K, Komori A, Migita K, Nakamura M, Nagahama H, Sasaki Y, Miyakawa Y, Ishibashi H. Alpha-fetoprotein above normal levels as a risk factor for the development of hepatocellular carcinoma in patients infected with hepatitis C virus. *J Gastroenterol.* 2011 Jan;46(1):92-100.

Taura N, Fukushima N, Yatsushashi H, Takami Y, Seike M, Watanabe H, Mizuta T, Sasaki Y, Nagata K, Tabara A, Komorizono Y, Taketomi A, Matsumoto S, Tamai T, Muro T, Nakao K, Fukuizumi K, Maeshiro T, Inoue O, Sata M. The incidence of hepatocellular carcinoma associated with hepatitis C infection decreased in Kyushu area. *Med Sci Monit.* 2011 Feb 1;17(2):PH7-11.

Soga T, Sugimoto M, Honma M, Mori M, Igarashi K, Kashikura K, Ikeda S, Hirayama A, Yamamoto T, Yoshida H, Otsuka M, Tsuji S, Yatomi Y, Sakuragawa T, Watanabe H, Nihei K, Saito T, Kawata S, Suzuki H, Tomita M, Suematsu M. Serum metabolomics reveals γ -glutamyl dipeptides as biomarkers for discrimination among different forms of liver disease

se. *J Hepatol* 2011; 55: 896-905

Saito T, Okumoto K, Haga H, Nishise Y, Ishii R, Sato C, Watanabe H, Okada A, Ikeda M, Togashi H, Ishikawa T, Terai S, Sakaida I, Kawata S: Potential therapeutic application of intravenous bone marrow infusion in patients with alcoholic liver cirrhosis. *Stem Cells Dev* 2011; 20: 1503-1510

Ishii R, Togashi H, Iwaba A, Sato C, Haga H, Sanjo M, Okumoto K, Nishise Y, Ito JI, Watanabe H, Saito K, Okada A, Takahashi K, Saito T, Kawata S: (99m)Tc-GSA SPECT analysis was clinically useful to evaluate the effect of interferon in a patient with interferon non-responsive chronic hepatitis C. *Ann Nucl Med* 2011; 25: 520-523

Ito J, Saito T, Iwaba A, Suzuki Y, Sanjo M, Ishii R, Sato C, Haga H, Okumoto K, Nishise Y, Watanabe H, Saito K, Togashi H, Kawata S: A case of monocular blindness as the initial presentation of hepatocellular carcinoma with skull metastasis. *Clin J Gastroenterol* 2011; 4: 273-277

渡辺久剛、斎藤貴史、富田恭子、佐藤智佳子、石井里佳、芳賀弘明、奥本和夫、西瀬雄子、河田純男： B型肝炎ウイルスジェノタイプ B型感染高浸淫地区における感染実態の変遷。 *肝臓* 2011; 52: 753-755

Sasayama M, Shoji I, Adianti M, Jiang DP, Deng L, Saito T, Watanabe H, Kawata S, Aoki C, Hotta H: A point mutation at Asn-534 that disrupts a conserved N-glycosylation motif of the E2 glycoprotein of hepatitis C virus markedly enhances the sensitivity to antibody neutralization. *J Med Virol* 2012; 84: 229-234

齋藤貴史、佐藤智佳子、上野義之： 肝疾患と糖尿病の最前線。特集・糖尿病の今。 *公衆衛生* 2012; 10: 779-782

齋藤貴史、上野義之： 肝細胞癌と肝硬変の最近のトピック。 *細胞* 2012; 44: 578-580

石井里佳、斎藤貴史、佐藤智佳子、芳賀弘明、奥本和夫、西瀬雄子、渡辺久剛、斎藤孝治、富樫 整、河田純男： 当科における肝硬変の成因別実態。高後 裕監修、青柳 豊、橋本悦子、西口修平、鈴木康秋、大竹孝明 編、我が国における非 B 非 C 型肝硬変の実態調査 2011。札幌：響文社、2012; 95-98

Ishii R, Saito T, Shao L, Okumoto K, Nishise Y, Watanabe H, Makino N, Fukao A, Kitanka C, Kayama T, Ueno Y, Kawata S: Serum prolactin levels and prolactin mRNA expression in peripheral blood mononuclear cells in hepatitis C virus infection. *J Med Virol* 2013; 85: 1199-1205

Saito T, Sugimoto M, Igarashi K, Saito K, Shao L, Katsumi T, Tomita K, Sato C, Okumoto K, Nishise Y, Watanabe H, Tomita M, Ueno Y, Soga T: Dynamics of serum metabolites

in patients with chronic hepatitis C receiving pegylated interferon plus ribavirin: A metabolomics analysis. *Metabolism* 2013; 62: 1577-1586

Saito T, Ueno Y: Transmission of hepatitis C virus: Self-limiting hepatitis or chronic hepatitis? *World J Gastroenterol* 2013; 19: 6957-6961

Karasawa T, Saito T, Ueno Y, Sugimoto M, Soga T: Metabolome analysis of erythrocytes from patients with chronic hepatitis C reveals the etiology of ribavirin-induced hemolysis. *Int J Med Sci* 2013; 10: 1575-1577

Matsuura K, Tanaka Y, Kusakabe A, Hige S, Inoue J, Komatsu M, Kuramitsu T, Hirano K, Ohno T, Hasegawa I, Kobashi H, Hino K, Hiasa Y, Nomura H, Sugauchi F, Nojiri S, Joh T, Mizokami M. Recommendation of lamivudine-to-entecavir switching treatment in chronic hepatitis B responders: Randomized controlled trial. *Hepatol Res.* 2011 Jun;41(6):505-511.

Kurosaki M, Tanaka Y, Nishida N, Sakamoto N, Enomoto N, Honda M, Sugiyama M, Matsuura K, Sugauchi F, Asahina Y, Nakagawa M, Watanabe M, Sakamoto M, Maekawa S, Sakai A, Kaneko S, Ito K, Masaki N, Tokunaga K, Izumi N, Mizokami M. Pre-treatment prediction of response to pegylated-interferon plus ribavirin for chronic hepatitis C using genetic polymorphism in IL28B and viral factors. *J Hepatol.* 2011 Mar;54(3):439-48.

Sugauchi F, Tanaka Y, Kusumoto S, Matsuura K, Sugiyama M, Kurbanov F, Ueda R, Mizokami M. Virological and clinical characteristics on reactivation of occult hepatitis B in patients with hematological malignancy. *J Med Virol.* 2011 Mar;83(3):412-8.

Kurosaki M, Tanaka Y, Tanaka K, Suzuki Y, Hoshioka Y, Tamaki N, Kato T, Yasui Y, Hosokawa T, Ueda K, Tsuchiya K, Kuzuya T, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Asahina Y, Matsuura K, Sugauchi F, Enomoto N, Nishida N, Tokunaga K, Mizokami M, Izumi N. Relationship between polymorphisms of the inosine triphosphatase gene and anaemia or outcome after treatment with pegylated interferon and ribavirin. *Antivir Ther.* 2011;16(5):685-94.

Nojiri S, Kusakabe A, Shinkai N, Matsuura K, Iio E, Miyaki T, Joh T. Factors influencing distant recurrence of hepatocellular carcinoma following combined radiofrequency ablation and transarterial chemoembolization therapy in patients with hepatitis C. *Cancer Management Res.* 2011;3:267-72.

Tanaka Y, Kurosaki M, Nishida N, Sugiyama M, Matsuura K, Sakamoto N, Enomoto N, Yatsuhashi H, Nishiguchi S, Hino K, Hige S, Itoh Y, Tanaka E, Mochida S, Honda M, Hiasa Y, Koike A, Sugauchi F, Kaneko S, Izumi

- N, Tokunaga K, Mizokami M. Genome-wide association study identified ITPA/DDRGGK1 variants reflecting thrombocytopenia in pegylated interferon and ribavirin therapy for chronic hepatitis C. *Hum Mol Genet.* 2011 Sep 1;20(17):3507-16.
- Kurosaki M, Hiramatsu N, Sakamoto M, Suzuki Y, Iwasaki M, Tamori A, Matsuura K, Kakinuma S, Sugauchi F, Sakamoto N, Nakagawa M, Izumi N. Data mining model using simple and readily available factors could identify patients at high risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C. *J Hepatol.* 2012 Mar;56(3):602-8.
- Sawai H, Nishida N, Mbarek H, Matsuda K, Mawatari Y, Yamaoka M, Hige S, Kang JH, Abe K, Mochida S, Watanabe M, Kurosaki M, Asahina Y, Izumi N, Honda M, Kaneko S, Tanaka E, Matsuura K, Itoh Y, Mita E, Korenaga M, Hino K, Murawaki Y, Hiasa Y, Ide T, Ito K, Sugiyama M, Ahn SH, Han KH, Park JY, Yuen MF, Nakamura Y, Tanaka Y, Mizokami M, Tokunaga K. No association for Chinese HBV-related hepatocellular carcinoma susceptibility SNP in other East Asian populations. *BMC Med Genet.* 2012 Jun 19;13(1):47.
- Nishida N, Sawai H, Matsuura K, Sugiyama M, Ahn SH, Park JY, Hige S, Kang JH, Suzuki K, Kurosaki M, Asahina Y, Mochida S, Watanabe M, Tanaka E, Honda M, Kaneko S, Orito E, Itoh Y, Mita E, Tamori A, Murawaki Y, Hiasa Y, Sakaida I, Korenaga M, Hino K, Ide T, Kawashima M, Mawatari Y, Sageshima M, Ogasawara Y, Koike A, Izumi N, Han KH, Tanaka Y, Tokunaga K, Mizokami M. Genome-Wide Association Study Confirming Association of HLA-DP with Protection against Chronic Hepatitis B and Viral Clearance in Japanese and Korean. *PLoS One.* 2012;7(6):e39175.
- Matsuura K, Tanaka Y, Watanabe T, Fujiwara K, Orito E, Kurosaki M, Izumi N, Sakamoto N, Enomoto N, Yatsunami H, Kusakabe A, Shinkai N, Nojiri S, Joh T, Mizokami M. ITPA genetic variants influence efficacy of PEG-IFN/RBV therapy in older patients with IL28B favorable type infected with HCV genotype 1. *J Viral Hepatitis.* 2013. in press
- Matsuura K, Watanabe T, Tanaka Y. Role of interferon-lambda (IL28B) for chronic hepatitis C treatment toward personalized medicine. *J Gastroenterol Hepatol.* 2014 Feb;29(2):241-9
- Sobata R, Matsumoto C, Igarashi M, Uchida S, Momose S, Hino S, Satake M, Tadokoro K. No viremia of pandemic (H1N1) 2009 was demonstrated in blood donors who had donated blood during the probable incubation period. *Transfusion* 2011; 51: 1949-1956.
- 高橋雅彦、内田茂治 輸血、血液製剤によるHCV感染の現状とその予防対策. *日本臨床* 2011; 69: 114-121.
- Tanaka J, Koyama T, Mizui M, Uchida S, Katayama K, Matsuo J, Akita T, Nakashima A, Miyakawa Y, Yoshizawa H. Total numbers of undiagnosed carriers of hepatitis C and B viruses in Japan estimated by age- and area-specific prevalence on the national scale. *Inter virology* 2011; 54: 185-195.
- Furui S, Hoshi Y, Murata K, Ito K, Suzuki K, Uchida S, Satake M, Mizokami M, Tadokoro K. Prevalence of amino acid mutation in hepatitis C virus core region among Japanese volunteer blood donors. *Journal of Medical Virology* 2011; 83: 1924-1929.
- 日野郁生、高橋雅彦、高梨美乃子、内田茂治、中島一格 HCV-RNAの検出からHCV抗体が検出されるまでに52週を要した1症例. *日本血液事業学会誌* 34: 595-598, 2012.
- Matsumoto C, Igarashi M, Furuta RA, Uchida S, Satake M, Tadokoro K. Xenotropic Murine Leukemia Virus-Related Virus Proviral DNA Not Detected in Blood Samples Donated in Japan. *JJID* 65: 334-336, 2012.
- 内田茂治 輸血後感染症副作用およびその検査. *検査と技術* 40(9) : 818-821, 2012.
- 内田茂治 献血者におけるHBV感染状況. *医学のあゆみ* 242(5) : 494-498, 2012.
- Taira R, Satake M, Momose S, Hino S, Suzuki Y, Murokawa H, Uchida S, Tadokoro K. Residual risk of transfusion-transmitted hepatitis B virus (HBV) infection caused by blood components derived from donors with occult HBV infection in Japan. *Transfusion*, 2013; 53: 1393-1404.
- Uchida S, Tadokoro K, Takahashi M, Yahagi H, Satake M, Juji T. Analysis of 66 patients definitive with transfusion-associated graft-versus-host disease and the effect of universal irradiation of blood. *Transfusion Medicine*, 2013; 23: 416-422.
- Furui Y, Satake M, Hoshi Y, Uchida S, Suzuki K, Tadokoro K. Cytomegalovirus (CMV) seroprevalence in Japanese blood donors and high detection frequency of CMV DNA in elderly donors. *Transfusion*, 2013; 53: 2190-2197.
- 本田豊彦、小河敏伸、佐藤美津子、濱岡洋一、百瀬俊也、内田茂治: Occult HBV carrierからの輸血による急性B型肝炎が強く疑われた1例. *血液事業*, 36: 721-725, 2013.
- Kimura Y, Gotoh A, Katagiri S, Hoshi Y, Uchida S, Yamasaki A, Takahashi Y, Fukutake K, Kiguchi T, Ohyashiki K. Transfusion-transmitted hepatitis E in a patient with myelodysplastic syndromes. *Blood Transfusion*, 2014; 12: 103-106.
- Tajiri H, Tanaka Y, Takano T, Suzuki M, Abukawa D, Miyoshi Y, Shimizu T, Brooks S. Association of IL28B polymorphisms with virological response to peginterferon and ribavirin

therapy in children and adolescents with chronic hepatitis C. *Hepatol Res.* 2013 Jul 11.

Tajiri H, Takeuchi Y, Takano T, Ohura T, Inui A, Yamamoto K, Higashidate Y, Kawashima H, Toyoda S, Ushijima K, Ramakrishnan G, Rosenlund M, Holl K. The burden of rotavirus gastroenteritis and hospital-acquired rotavirus gastroenteritis among children aged less than 6 years in Japan: a retrospective, multicenter epidemiological survey. *BMC Pediatr.* 2013 May 22;13:83.

Torii Y, Kimura H, Ito Y, Hayakawa M, Tanaka T, Tajiri H, Yoto Y, Tanaka-Taya K, Kanegane H, Nariyai A, Sakata H, Tsutsumi H, Oda M, Yokota S, Morishima T, Moriuchi H. Clinico-epidemiological States of Mother-to-Child Infections: A Nationwide Survey in Japan. *Pediatric Infectious Disease Journal* 2013 (in press).

田尻 仁, 高野 智子. 小児 B 型肝炎の感染予防と最近の治療法. *医学のあゆみ* 2012;24:383-388.

Tajiri H, Tanaka H, Brooks S, Takano T. Reduction of hepatocellular carcinoma in childhood after introduction of selective vaccination against hepatitis B virus for infants born to HBV carrier mothers. *Cancer Causes Control.* 2011;22:523-7.

Tomomasa T, Tajiri H, Kagimoto S, et al. Leukocytapheresis in pediatric patients with ulcerative colitis. *J Pediatr Gastroenterol Nutr.* 2011;53:34-9.

Takano T, Tajiri H, Kashiwagi Y, Kimura S, Kawashima H. Cytokine and chemokine response in children with the 2009 pandemic influenza A (H1N1) virus infection. *Eur J Clin Microbiol Infect Dis.* 2011;30:117-20.

Tajiri H, Inui A, Kiyohara Y, et al. Peginterferon alpha-2b and ribavirin for the treatment of chronic hepatitis C in Japanese pediatric and young adult patients. *Eur J Gastroenterol Hepatol.* 2009;21:1256-60.

田尻仁, 高野智子. 【小児の肝疾患 up to date】C型肝炎. *小児科* 2011年 52巻 1号 Page29-34

高野智子, 田尻仁. 小児 B 型肝炎の感染予防と最近の治療法. *小児科* 2010年 51巻 8号 Page1055-1062

田中英夫, 細野覚代, 伊藤秀美. 肝癌の疫学. *臨床外科 増刊号.* 67 (11):138-142, 2012.

2. 学会発表

田中英夫. 日本人のがん個別化予防の実現に向けたがん分子疫学研究の方向性. 第 72 回日本癌学会学術総会, 神奈川, 2013.10.04.

Hideo Tanaka. Hidemi Ito. Descriptive epidemiology of cancer in "oldest-old" Japanese population. 第 44 回高松宮妃癌研究基金国際シンポジウム, 東京, 2013.11.14.

田中英夫. 日本のコホート研究が慢性ウイルス性肝疾患対策・診療に果たした役割. 第 16 回日本肝臓学会大会. 基調講演. 2012年 10月 神戸.

Tanaka H, Hosono S. Estimation of incidence rate of hepatitis B virus horizontal infection in the Japanese population, 2005. IEA World Congress of Epidemiology, Edinburgh, 2011.

K. Yoshioka, H. Shimazaki, N. Kawabe, M. Harata, Y. Nitta, M. Murao, T. Nakano, Y. Arima, T. Kan, M. Ohki, K. Nakaoka, T. Yuka, T. Nishikawa, K. Osakabe, N. Ichino, S. Hashimoto. Genetic variant I148M in PNPLA3 is associated with acoustic radiation force impulse imaging in patients with NAFLD. The 64th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases, Washington 2013.11.2.

N. Kawabe, S. Hashimoto, M. Harata, Y. Nitta, M. Murao, T. Nakano, H. Shimazaki, Y. Arima, T. Kan, N. Kazunori, M. Ohki, T. Yuka, T. Nishikawa, K. Osakabe, N. Ichino, K. Yoshioka. Impact of patatin-like phospholipase domain-containing protein 3 (PNPLA3) polymorphism on steatosis and fibrosis in patients with chronic hepatitis C treated with pegylated interferon plus ribavirin. The 64th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases, Washington 2013.11.4.

T. Kan, K. Osakabe, N. Kawabe, S. Hashimoto, M. Harata, Y. Nitta, M. Murao, T. Nakano, Y. Arima, H. Shimazaki, M. Ohki, K. Nakaoka, T. Yuka, T. Nishikawa, N. Ichino, K. Yoshioka. Acoustic radiation force impulse imaging for evaluation of antiviral treatment response in chronic hepatitis C. The 64th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases, Washington 2013.11.5.

川部直人・橋本千樹・市野直浩・刑部恵介・西川徹・大城昌史・菅敏樹・水野裕子・嶋崎宏明・中野卓二・新田佳史・村尾道人・原田雅生・吉岡健太郎: 肝脂肪化と PNPLA3 遺伝子多型の関係—C 型慢性肝炎における検討. 第 49 回日本肝臓学会総会 ポスターセッション 東京 2013.6.7

菅敏樹・高川友花・大城昌史・中岡和徳・水野裕子・嶋崎宏明・中野卓二・新田佳史・村尾道人・原田雅生・川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎: 当院における C 型慢性肝炎に対する 3 剤併用療法の使用経験. 第 49 回日本肝臓学会総会 ポスターセッション 東京 2013.6.7

菅敏樹・高川友花・大城昌史・中岡和徳・水野裕子・嶋崎宏明・中野卓二・新田佳史・村尾道人・原田雅生・川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎: 当院における C 型慢性肝炎に対する Telaprevir を含む 3 剤併用療法の使用経験. 第 17 回日本肝臓学会大会 ポスターセッション 東京 2013.10.9-10

嶋崎宏明・川部直人・橋本千樹・原田雅生・村尾道人・新田佳史・中野卓二・水野裕子・菅敏樹・中岡和徳・大城昌史・高川友花・青山和佳奈・西川徹・吉岡健太郎: NASH 診断における肝硬度測

定の有用性—ARFIによる検討. 第17回日本肝臓学会大会 ポスターセッション 東京 2013.10.9-10

川部直人・橋本千樹・原田雅生・村尾道人・新田佳史・中野卓二・水野裕子・菅敏樹・中岡和徳・大城昌史・高川友花・西川徹・刑部恵介・市野直浩・吉岡健太郎: C型慢性肝炎に対するインターフェロン治療による肝硬度の変化—ARFIによる検討— 第17回日本肝臓学会大会 ポスターセッション 東京 2013.10.9-10

村尾道人・川部直人・橋本千樹・原田雅生・新田佳史・中野卓二・嶋崎宏明・水野裕子・菅敏樹・中岡和徳・大城昌史・高川友花・吉岡健太郎: C型肝炎に対するペグインターフェロン+リバビリン併用療法後の発癌についての検討. 第17回日本肝臓学会大会 ポスターセッション 東京 2013.10.9-10

兒玉俊彦・高川友花・大城昌史・中岡和徳・水野裕子・嶋崎宏明・中野卓二・新田佳史・村尾道人・原田雅生・川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎: BおよびC型肝炎ウイルス検診陽性者に対するアンケート調査. 第40回日本肝臓学会西部会一般演題 岐阜 2013.12.6

嶋崎宏明・川部直人・吉岡健太郎: NAFLDにおけるPNPLA3のSNPとARFIによるVs値との関係. 第40回日本肝臓学会西部会ワークショップ 岐阜 2013.12.6

菅敏樹・大城昌史・水野裕子・嶋崎宏明・中野卓二・村尾道人・新田佳史・原田雅生・川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎: 当院におけるC型慢性肝炎に対するTelaprevirを含む3剤併用療法の使用経験. 第99回日本消化器病学会総会 ポスターセッション 鹿児島 2013.3.21-23

川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎: C型肝炎治療困難例に対する瀉血、IFN-β療法、脾摘/PSE後のPEG-IFN療法の検討. 第99回日本消化器病学会総会 ワークショップ 鹿児島 2013.3.21-23

Harata M, Yoshioka K, Kawabe N, Hashimoto S, Nitta Y, Murao M, Nakano T, Shimazaki H, Kan T, Ohki M. Liver stiffness increases with age and correlates with development of hepatocellular carcinoma in HCV infected patients. The 10th JSH Single Topic Conference “Hepatitis C: Best Practice Based on Science” Tokyo 2012.11.21-22.

原田雅生・川部直人・吉岡健太郎: HCV感染者におけるARFIによる肝硬度測定の有用性の検討 第16回日本肝臓学会大会(JDDW2012) ワークショップ神戸 2012.10.10~13

川部直人・橋本千樹・原田雅生・新田佳史・村尾道人・中野卓二・嶋崎宏明・有馬裕子・吉岡健太郎: 進行肝細胞癌に対するシスプラチン動注を併用したTACEの有効性と安全性の検討 第16回日本肝臓学会大会(JDDW2012) 神戸 2012.10.10~13

土居崎正雄・片野義明・本田隆・林和彦・石上雅敏・石川哲也・中野功・浦野文博・吉岡健太郎・豊田秀徳・熊田卓・山口丈夫・春田純一・後藤秀実: late responderに対するペグインターフェロンα2b・リバビリン 72週投与の治療効果と core

とISDR変異. IL28B一塩基多型の関連についての検討 第48回日本肝臓学会総会 オープンワークショップ 金沢 2012.6.7-8

川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎: C型肝硬変に対するインターフェロン治療の工夫. 第48回日本肝臓学会総会 ワークショップ 金沢 2012.6.7-8

有馬裕子・橋本千樹・吉岡健太郎・川部直人・原田雅生・新田佳史・村尾道人・中野卓二・嶋崎宏明・市野直浩・刑部恵介・西川徹: 肝硬度によるC型慢性肝炎に対するPEG-IFN・RBV併用療法の治療効果予測. 第48回日本肝臓学会総会 ポスターセッション 金沢 2012.6.7-8

西川徹・吉岡健太郎・橋本千樹・川部直人・原田雅生・市野直浩・刑部恵介・加藤美穂・杉山博子・青山和佳奈: HCV感染症におけるVTTQによる肝線維化評価 JSUM2012 日本超音波医学会第85回学術集会 一般口演東京 2012.5.25~27

嶋崎宏明・有馬裕子・中野卓二・村尾道人・新田佳史・原田雅生・川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎・刑部恵介・市野直浩・西川徹: C型慢性肝炎におけるARFIによる肝線維化評価 第98回日本消化器病学会総会 一般演題東京 2012.4.19-21

嶋崎宏明・橋本千樹・川部直人・原田雅生・新田佳史・村尾道人・中野卓二・有馬裕子・刑部恵介・市野直浩・西川徹・青山和佳奈・吉岡健太郎: NAFLDにおけるAcoustic Radiation Force Impulse(ARFI)の有用性の検討 第97回日本消化器病学会総会・ミニシンポジウム 2011.5.13~15 東京

川部直人・橋本千樹・西川徹・刑部恵介・市野直浩・嶋崎宏明・中野卓二・原田雅生・吉岡健太郎: Acoustic Radiation Force Impulse(ARFI)による非侵襲的肝線維化評価と肝発癌予測 JSUM2011 日本超音波医学会第84回学術集会・特別演題企画 2011.5.27~29 東京

西川徹・吉岡健太郎・橋本千樹・川部直人・原田雅生・市野直浩・刑部恵介・杉山博子・青山和佳奈: 肝臓におけるVirtual Touch Tissue Quantificationのせん断波計測の検討 JSUM2011 日本超音波医学会第84回学術集会・一般口演 2011.5.27~29 東京

村尾道人・橋本千樹・吉岡健太郎: C型慢性肝炎に対する治療効果とIL28B・ITPA遺伝子多型が及ぼす影響 第47回日本肝臓学会総会・ポスターセッション 2011.6.2~3 東京

新田佳史・橋本千樹・川部直人・原田雅生・村尾道人・中野卓二・有馬裕子・嶋崎宏明・吉岡健太郎: 自己免疫性肝炎における肝硬度測定 第47回日本肝臓学会総会・ポスターセッション 2011.6.2~3 東京

川部直人・橋本千樹・西川徹・原田雅生・新田佳史・村尾道人・中野卓二・嶋崎宏明・有馬裕子・吉岡健太郎: 肝がん検診におけるARFI(Acoustic Radiation Force Impulse)導入の有用性 第53回日本消化器病学会大会(JDDW2011) 2011.10.20~23 福岡

村尾道人・有馬裕子・嶋崎宏明・中野卓二・新田佳史・原田雅生・川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎: C型慢性肝炎に対するISDR・コア領域の変

異・IL28B 遺伝子多型と治療効果について 第 15 回日本肝臓学会大会(JDDW2011) 2011.10.20~23 福岡

Murao M, Yoshioka K, Nishikawa T, Hashimoto S, Kawabe N, Harata M, Nitta Y, Nakano T, Arima Y, Shimazaki H, Ichino N, Osaka K. IL28B SNP, ITPA SNP and mutation of core region and interferon sensitivity determining region of HCV: their effects on the response to PEG-IFN/RBV therapy in patients with chronic HCV genotype 1 infection. The 62nd Annual Meeting of The American Association for The Study of Liver Diseases 2011.11.4-8 San Francisco.

Yoshioka K, Nishikawa T, Hashimoto S, Kawabe N, Harata M, Nitta Y, Murao M, Nakano T, Arima Y, Shimazaki H, Ichino N, Osaka K. Acoustic radiation force impulse elastography for evaluation of fibrosis stage and prediction of hepatocellular carcinoma in chronic HCV infection. The 62nd Annual Meeting of The American Association for The Study of Liver Diseases 2011.11.4-8 San Francisco.

渡辺久剛、斎藤貴史、佐藤智佳子、石井里佳、芳賀弘明、奥本和夫、西瀬雄子、齊藤孝治、富樫 整、河田純男：急性 B 型肝炎におけるジェノタイプ A 型感染の実態と臨床経過 第 47 回日本肝臓学会総会、東京；2011 年 6 月

石井里佳、斎藤貴史、富田恭子、佐藤智佳子、芳賀弘明、奥本和夫、西瀬雄子、渡辺久剛、富樫整、河田純男：当科における肝硬変の成因別実態：第 15 回日本肝臓学会大会、福岡；2011 年 10 月

渡辺久剛、斎藤貴史、河田純男：地域コホート研究からみた C 型肝炎ウイルス持続感染者の自然史 (シンポジウム：Cohort 研究からみたウイルス性肝炎の解明)、第 16 回日本肝臓学会大会、神戸；2012 年 10 月

西瀬雄子、斎藤貴史、勝見智大、富田恭子、佐藤智佳子、石井里佳、奥本和夫、渡辺久剛、今井康陽、堀田 博、上野義之：C 型肝炎ウイルス 1b の NS 3 領域蛋白質 2 次構造を基にしたサブグループ分類と肝細胞癌発生の関連性に関する前向き研究 第 3 報、第 49 回日本肝臓学会総会、東京；2013 年 6 月

西瀬雄子、奥本和夫、富田恭子、勝見智大、佐藤智佳子、安蘇里佳、渡辺久剛、斎藤貴史、上野義之：ゲノタイプ B 高浸淫地区における免疫抑制・化学療法を受けた HBV 既往感染者の HBV 再活性化の検討、第 17 回日本肝臓学会大会、東京；2013 年 10 月

Genetic Polymorphism in IL28B gene associated with clinical course of hepatitis C virus infection in Japanese population. Kentaro Matsuura, Yasuhito Tanaka, Nao Nishida, Masaya Sugiyama, Masayuki Kurosaki, Namiki Izumi, Akihiro Tamori, Koichi Abe, Fuminaka Suguchi, Shunsuke Nojiri, Takashi Joh, Hirohito Tsubouchi, Katsushi Tokunaga, Masashi Mizokami. 21th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver. February 19, 2011. Bangkok, Thailand.

C 型肝炎患者に対するペグインターフェロン・リバビリン療法と ITPA 遺伝子の検討. 松浦健太郎、田中靖人、飯尾悦子、日下部篤宣、新海登、宮木知克、野尻俊輔、城卓志、溝上雅史. 第 47 回日本肝臓学会総会 平成 23 年 6 月 2 日 ホテルグランパシフィック LE DAIBA 東京

(シンポジウム 10) IL28B・ITPA 遺伝子検査に基づいたペグインターフェロン・リバビリン治療効果予測. 松浦健太郎、田中靖人、溝上雅史. 第 15 回日本肝臓学会大会 平成 23 年 10 月 21 日 福岡国際会議場 福岡

IL28B and ITPA gene variants correlate with treatment efficacy in pegylated-interferon plus ribavirin therapy for chronic hepatitis C.

Kentaro Matsuura, Yasuhito Tanaka, Nao Nishida, Masaya Sugiyama, Tsunamasa Watanabe, Fuminaka Suguchi, Masayuki Kurosaki, Namiki Izumi, Naoya Sakamoto, Nobuyuki Enomoto, Hiroshi Yatsushashi, Shuhei Nishiguchi, Keisuke Hino, Shuichi Kaneko, Shunsuke Nojiri, Takashi Joh, Katsushi Tokunaga, Masashi Mizokami. American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Nov.4-8, 2011, San Francisco, USA.

(シンポジウム) IL28B・ITPA 遺伝子検査に基づいた個別化治療の展望. 松浦健太郎、田中靖人、溝上雅史. 第 39 回日本肝臓学会西部会 2011 年 12 月 9 日 岡山

B 型肝炎関連肝癌の囲い込み ～ウイルス変異及び HBV 関連マーカーを用いて. 新海登、田中靖人、日下部篤宣、松浦健太郎、溝上雅史. 日本消化器がん検診学会 2011 年度第 50 回総会 2011 年 5 月 20 日 東京

香港における HBV キャリア成立と HLA-DP 領域 SNPs の関連性. 渡邊綱正、松浦健太郎、新海登、飯尾悦子、日下部篤宣、菅内文中、徳永勝士、溝上雅史、田中靖人. 第 19 回日本消化器関連学会週間 (肝臓学会) 平成 23 年 10 月 20 日 マリンメッセ福岡 福岡

Mutations in the interferon sensitivity determining region of HCV, age and total ribavirin dose is an independent predictor of relapse among early virological responders to Peg-interferon plus ribavirin therapy.

Masayuki Kurosaki, Naoya Sakamoto, Kentaro Matsuura, Sei Kakinuma, Mina Nakagawa, Yasuhiro Asahina, Nobuyuki Enomoto, Namiki Izumi. American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Nov.4-8, 2011, San Francisco, USA.

The association of HLA-DP locus with chronic hepatitis B and viral clearance. Nao Nishida, Hiromi Sawai, Yoriko Mawatari, Megumi Yamaoka, Kentaro Matsuura, Yasuhito Tanaka, Masaya Sugiyama, Kiyooki Ito, Katsushi Tokunaga, Masashi Mizokami. American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Nov.4-8, 2011, San Francisco, USA.

ITPA gene variants associated with hemolytic

anemia and treatment efficacy in pegylated-interferon plus ribavirin therapy for chronic hepatitis C. Kentaro Matsuura, Yasuhito Tanaka, Nao Nishida, Masayuki Kurosaki, Naoya Sakamoto, Nobuyuki Enomoto, Hiroshi Yatsushashi, Shuichi Kaneko, Katsushi Tokunaga, Masashi Mizokami. The 22nd Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL 2012). Feb.16-19th, 2012. Taipei, Taiwan.

(ワークショップ 3) IP-10 値を含めた PEG-IFN/RBV 療法における治療予測因子の検討. 松浦健太郎, 田中靖人, 飯尾悦子, 日下部篤宣, 新海登, 宮木知克, 野尻俊輔, 渡邊綱正, 藤原圭, 折戸悦朗, 城卓志, 溝上雅史. 第 48 回 日本肝臓学会総会 2012 年 6 月 7 日 金沢

2 剤, 3 剤併用療法における, IP-10 の治療前, 治療開始早期の推移と治療効果, ウイルス動態に与える影響. 松浦健太郎, 飯尾悦子, 日下部篤宣, 新海登, 藤原圭, 宮木知克, 野尻俊輔, 渡邊綱正, 村上周子, 折戸悦朗, 城卓志, 田中靖人. 第 16 回 日本肝臓学会大会 平成 24 年 10 月 10 日 神戸国際展示場 神戸

IL28B genetic variants and serum IP-10 level associated with virological response to PEG-IFN/RBV and PEG-IFN/RBV/Telaprevir therapy. Kentaro Matsuura, Yasuhito Tanaka, Tsunamasa Watanabe, Shuko Murakami, Etsuko Iio, Mio Endo, Noboru Shinkai, Kei Fujiwara, Tomoyuki Miyaki, Shunsuke Nojiri, Atsunori Kusakabe, Etsuro Orito, Takashi Joh, Masashi Mizokami. American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Nov.9-13, 2012, Boston, USA.

B 型慢性肝炎患者における核酸アナログ中止症例の検討～中止後長期観察例、プレコア/コアプロモーター変異をふまえて～新海登、田中靖人、松浦健太郎、溝上雅史. 第 48 回 日本肝臓学会総会 2012 年 6 月 8 日 金沢

Meta-analysis identifies the association of HLA-DP locus with chronic hepatitis B and viral clearance widely in East-Asian populations. Nao Nishida, Yasuhito Tanaka, Hiromi Sawai, Yoriko Mawatari, Megumi Yamaoka, Asako Koike, Kentaro Matsuura, Masaya Sugiyama, Kazumoto Murata, Masaaki Korenaga, Naohiko Masashi, Kwang-Hyub Han, Katsushi Tokunaga, Masashi Mizokami. American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Nov.9-13, 2012, Boston, USA.

(シンポジウム 1) 3 剤併用療法における個別化治療の実際と課題. 松浦健太郎, 田中靖人, 城卓志 第 99 回日本消化器病学会総会 平成 25 年 3 月 22 日 城山観光ホテル 鹿児島

(シンポジウム 1) 3 剤併用療法における早期 HCV-RNA 陰性化に関連する要因 ～血清 IP-10 値、末梢血単核球中の IFN 誘導遺伝子群の発現を含めた解析～松浦健太郎, 飯島沙幸, 田中靖人. 第 49 回日本肝臓学会総会 平成 25 年 6 月 6 日 京王プラザホテル 東京

腎移植後 C 型慢性肝炎患者に対するペグインター

フェロン・リバビリン併用療法. 藤原圭, 日下部篤宣, 林克巳, 山田智則, 坂哲臣, 蟹江浩, 青木美帆, 野尻俊輔, 新海登, 松浦健太郎, 遠藤美生, 飯尾悦子, 城卓志, 折戸悦朗. 第 17 回日本肝臓学会大会 平成 25 年 10 月 9 日 グランドプリンスホテル新高輪 東京

高齢者 C 型慢性肝炎に対する Telaprevir/PEG-IFN/RBV 三剤併用療法. 藤原圭, 新海登, 遠藤美生, 飯尾悦子, 松波加代子, 野尻俊輔, 田中靖人, 城卓志. 第 40 回日本肝臓学会西部会 平成 25 年 12 月 6 日 長良川国際会議場 岐阜

Suppressive genes expressions of interferon signaling pathway in peripheral blood mononuclear cells associated with IL28B genetic variants and virological response to PEG-IFN, RBV plus NS3/4 protease inhibitor. Kentaro Matsuura, Sayuki Iijima, Tsunamasa Watanabe, Etsuko Iio, Mio Endo, Noboru Shinkai, Kei Fujiwara, Shunsuke Nojiri, Takashi Joh, Yasuhito Tanaka. American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Nov.1-5, 2013, Washington, USA.

Analysis of novel complex structural variants in hepatitis B virus. Kei Fujiwara, Noboru Shinkai, Shunsuke Nojiri, Mio Endo, Etsuko Iio, Takashi Joh. American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Nov.1-5, 2013, Washington, USA.

田尻 仁, 高野 智子, 鈴木 光幸, 三善 陽子, 虻川 大樹 小児・青年期の C 型慢性肝炎に対するペグインターフェロン・リバビリン療法 治療効果と IL28B 遺伝子多型の検討: 肝臓 54 巻 Suppl.2 PageA625(2013.09)

高野 智子, 田尻 仁, 恵谷 ゆり, 三善 陽子 小児期 B 型肝炎ウイルス感染症の自然経過とインターフェロンの治療効果の検討: 肝臓 54 巻 Suppl.2 PageA548(2013.09)

杉浦 時雄, 遠藤 剛, 伊藤 孝一, 齋藤 伸治, 田中 靖人, 鈴木 伸宏, 高野 智子, 田尻 仁 高ウイルス量妊婦へのラミブジン投与による B 型肝炎ウイルス母子感染予防: 日本小児科学会雑誌 117 巻 8 号 Page1357(2013.08)

高野 智子, 田尻 仁, 田中 靖人, 三善 陽子, 牛島 高介, 鈴木 光幸, 虻川 大樹, 村上 潤, 要藤 裕孝 小児 B 型慢性肝炎の自然経過およびインターフェロン治療効果における IL28B 遺伝子多型の検討: 肝臓 54 巻 Suppl.1 PageA384(2013.04)

田尻 仁, 高野 智子 小児・青年期の C 型慢性肝炎に対するペグインターフェロン・リバビリン療法 治療効果と IL28B 遺伝子多型の検討: 肝臓 54 巻 Suppl.1 PageA209(2013.04)

田尻 仁, 高野 智子, 鈴木 光幸, 清原 由起, 三善 陽子, 虻川 大樹, 清水 俊明. 小児期・思春期の C 型慢性肝炎に対する高用量ペグインターフェロン・リバビリン併用療法の試み. 第 16 回日本肝臓学会大会, 2012.10.10, 神戸.

田尻 仁, 高野 智子, 鈴木 光幸, 清原 由起, 三善 陽子, 虻川 大樹, 清水 俊明. 小児期 C 型慢性肝炎に対する高用量ペグインターフェロン・リバビ

リン併用療法の成績. 第 39 回日本小児栄養消化器
肝臓学会, 2012.7.13, 大阪

藤井 洋輔, 森島 恒雄, 藤澤 知雄, 田尻 仁. 肝炎
ウイルスの現状 我が国の B 型肝炎母子感染の実
態調査について. 第 53 回日本臨床ウイルス学会,
2012.6.17, 大阪.

田尻 仁. 小児 HBe 抗原陽性 B 型慢性肝炎に対す
るラミブジン短期併用インターフェロン療法の試
み. 第 48 回日本肝臓学会総会, 2012.6.8, 金沢.

高野 智子, 田尻 仁. 小児期 B 型慢性肝炎の母子感
染と水平感染の臨床的比較検討. 第 48 回日本肝臓
学会総会, 2012.6.8, 金沢.

田尻 仁, 高野 智子, 木村 貞美, 西浦 博史. 小児
HBe 抗原陽性 B 型慢性肝炎に対するラミブジン短
期併用インターフェロン療法の試み. 第 115 回日
本小児科学会, 2012.4.21, 福岡.

高野 智子, 田尻 仁, 清原 由起, 三善 陽子, 恵谷
ゆり. 小児期発症 B 型慢性肝炎に対するインター
フェロン治療の短期的及び長期的効果について.
第 115 回日本小児科学会, 2012.4.20, 福岡.

高野智子, 田尻仁, 清原由起, 恵谷ゆり, 三善陽子。
小児 B 型慢性肝炎の HBe 抗原・抗体系のセロコン
バージョンに関連する因子の検討。肝臓 2011 年 5
2 巻 Suppl.3 .A914

田尻仁 , 高野智子。小児 B 型肝炎の家族内感染と
予防の実態に関する検討。肝臓 2011 年 52 巻 Sup
pl.3 .A826

高野智子, 田尻仁, 清原由起, 恵谷ゆり, 三善陽子。
小児期 B 型慢性肝炎に対するインターフェロン治
療の短期的及び長期的効果に関する検討。肝臓 20
11 年 52 巻 Suppl.2 .A584

田尻仁 , 高野智子, 木村貞美。HBV 関連小児期肝
細胞癌に関する検討 臨床像と HB ワクチンによ
る発癌予防。日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌 20
11 年 25 巻 1 号 36

高野智子 , 田尻仁, 清原由起, 三善陽子。C 型肝炎
ウイルス母子感染 52 症例の小児期の臨床経過及び
治療成績に関する検討。肝臓 2011 年 52 巻 Suppl.
1 .A287(2011.04)

田尻仁 , 高野智子, 木村貞美。小児 B 型肝炎の家
族内感染と予防の実態, 日本小児科学会雑誌 2011
年 115 巻 2 号 255

高野智子ら。当科フォロー中の B 型肝炎ウイルス
母子感染 26 例の臨床経過についての検討。日本小
児科学会雑誌 2011 年 115 巻 2 号 255

肝細胞癌罹患数から逆算するわが国のウイルス性
肝疾患患者数の推計法 第 35 回日本がん疫学・分
子疫学研究会総会、広島、2012

E. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし